

夕陽會報

第210号

緑の島の夕景 (初夏の夕陽)



◇巻頭言◇

函館校の明日に光が！

国際地域学科に再編

夕陽会会長 橋田恭一 (昭和39年卒)

母校函館校の新学期構想は、二転三転した上でどうやら従前予定されていた国際地域創造学部（仮称）ではなく、国際地域学科に落ち着いたようである。

高間謙二学長は六月二十七日、記者会見を開き函館校は国際地域学科として再編するとした。再編案では、入学定員が現在の三百三十人から二百八十人。現在の人間発達専攻が教員養成機能を残した地域教育専攻（定員四十五人）に、国際文化・協力、情報、地域創生、環境科学の四つの専攻をまとめて地域協働専攻（定員二百四十人）になる。その下に国際協働、地域政策や地域環境科学などのグループに分かれる予定。

地域教育専攻では幼・小学校免許が取れ、小学校の外国語活動に対応した授業が組まれる。

地域協働専攻は三つのグループに分かれるが、従来あるカリキュラムの内容を生かし、中・高校の教員免許状が取れることになる。

この案が文科省の諮問機関である大学設置審議会の審査を経て、来年四月の開設を目指すことになる。これにより、夕陽会としては昨年から推進してきた再編をめぐる運動を一先ず保留し、大学本部の動きを慎重に見守ることとする。

顧みると、誠に息の長い戦いの日々であった。夕陽会報第二〇〇号で報告したように昨年六月十四日、大学本部が新学部設置を一年延期したことによりこれまで取得できた小学校・中学校五教科・幼稚園・特別支援学校各教諭免許状の取得と附属学校園の存続を目指して夕陽会の

総力を結集して運動を展開してきた。はじめに、函館校と共同で「函館校の未来を考える教育フォーラム」を開催した。これにより、函館校執行部は地域の要望にこたえるべく、小学校教員を含む教員養成機能の存続を決めたようである。以後、夕陽会本部は星野副学長と一体となつて活動を推進してきた。

次いで、署名活動である。活動の母体となる「道南の教育を考える会」（代表安島進氏）を発足させ活動を開始した。署名は一次二〇八九三筆、二次一五〇五八筆を集めることができた。会員各位の熱意溢れる取り組みに心からの謝意を表したい。また、函館消費者協会理事長岩船寛様には、望外のご支援をいただいた。経済界をはじめ各種団体を精力的に訪問して協力依頼する姿に私も大いなる刺激を受け、ただただ感謝の気持ちを強くした。

さらには、国會議員、市議會議員、函館市長、北斗市長、乙部町長の皆様の他、道南各首長への協力依頼である。工藤函館市長には夜打ち朝掛けで市長室にお願ひに出向いた。多忙にも関わらず親切に対応していただいた。寺島町長には、乙部町に五回訪問して協力を要請し、文科省との太いパイプをフル稼働させて支援していただいた。

これらすべては本間学長の翻意を促す手立てとなった。それぞれの取り組みについては、会務報告をご覧いただきたい。未だ予断は許さないが、私たちが望む方向に進んでいることを会員の皆様と共に喜びたい。

顧問・参与会

（平成二十五年六月十四日（金）函館国際ホテルにおいて、第六回本部役員会に引き続き、顧問・参与会が開催されました。開会に先立ち、全員で「夕陽讃歌」を斉唱し、会が始まりました。議長には繪面副会長が選出され、議事が進行しました。

総会議案の審議では、平成二十四年度の会務・決算・監査の各報告と、平成二十五年度の運営方針・推進事項および予算案が提案されました。

続いて、橋田会長より、今回の函館校の新学科に関する動向やこれまでの詳しい経緯が説明されました。この中で橋田会長は「今回函館校に新学科が設置され、教員養成機能が存続されることになりほっとしている。星野副学長はじめ函館校執行部の皆さんや工藤市長はじめ各市町村の首長の皆さん、そして消費者協会の岩船氏など、多くの方々に支えられたことが確実に力になっていった。心より感謝申し上げます。」と述べられました。

総会・大懇親会

いろいろな方々に支えられて：人とのつながり

平成25年度 夕陽会総会

平成二十五年度の夕陽会総会は、六月二十二日（土）、函館国際ホテルで開催された。

審議に先立ち、橋田会長よりご挨拶があり、夕陽会を取り巻く状況の厳しい中、大学に小学校教員養成課程を残すために、函館市・北斗市はもちろん、渡島・檜山の地域の方々の署名活動が大変功を奏したことへのお礼が述べられた。

次に、議長として合田晃子氏（釧路支部）、寺田洋子氏（苫小牧支部）、鈴木牧男氏（渡島支部）を選出し、役員選考委員・議事録署名人名を確認した後、議事および別室での役員選考に入った。

報告事項では、奥崎幹事長より平成二十四年度会務・事業報告がなされ、会員名簿の発行、夕陽音楽祭の開催、函館校の教員養成機能存続の動きなどについての報告がなされた。続いて溝口財政部長より、今年度の通常会費と基本金会計の

報告がなされ、笹原監査よりすべては適正に処理されている旨の報告があった。母校関係では、橋田会長から、教員養成機能存続までの詳しい経緯が話され、道南の教育を考える会との連携活動の様子等が報告され、すべての報告事項は拍手をもって承認された。

議事事項では、はじめに奥崎幹事長より平成二十五年度の運営方針並びに推進事項・事業計画の提案があった。本年度も「創造し行動する夕陽会」をモットーに次の六点を推進事項とし、特に重点項目（※重点項目）を明らかにして活動することが提案された。

①組織強化と運営の効率化

※支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携。

※教職外の会員及び新卒会員の入会促進、会友制度の創設。

②人材の育成

※指導主事及び教頭等の学校管理職候補の発掘と育成。

③財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

※百周年を見据えた計画的な財政基盤の整備。

※会務・事業検討による、諸業務、諸事業の見直しと再構築。

④研究・研修、文化事業の奨励

※各支部の研修活動等の支援。

⑤母校への支援と地域への貢献

※母校創立百周年記念等への協賛。

※母校及び附属学校園に関する情報の収集と新学科への対応。

⑥夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・活用

※夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備、電子的保存・展示の試行。

※百周年記念事業に向けた諸資料の計画的収集・整理。

また、溝口財政部長より平成二十五年度の予算案がなされ、いずれも原案通り承認された。役員改選では橋田会長が引き続き会長に選出され、また次のように新役員が承認された。

○会長	橋田 恭一（昭和三十九年卒）
○副会長	繪面 和子（昭和三十九年卒）
○副会長	網野 重治（昭和四〇年卒）
○副会長	杉本 征年（昭和四〇年卒）
○副会長	天野 哲征（昭和四一年卒）
○副会長	青柳 史匡（昭和四二年卒）
○副会長	伊藤 皓嗣（昭和四四年卒）
○副会長	田面 茂樹（昭和四八年卒）
○副会長	田邊 信之（昭和五一年卒）
○副会長	大堂 譲（昭和五三年卒）
○副会長	和高 敏明（昭和五三年卒）
○副会長	佐藤 久道（昭和五三年卒）
○副会長	藪 敬（昭和五三年卒）
○監査	笹原 志郎（昭和三八年卒）
○監査	森下 英治（昭和三九年卒）
○監査	近藤 健（昭和四一年卒）
○幹事長	奥崎 敏之（昭和六〇年卒）
○副幹事長	榎山 聡（昭和六〇年卒）
○副幹事長	福井 博志（昭和六〇年卒）
○副幹事長	平田新次郎（昭和六二年卒）
（昭和62年卒）	北昭和小教頭 三津橋ゆかり（記）

大懇親会

於 函館国際ホテル



挨拶に立つ橋田会長



議長挨拶



新会員挨拶

平成25年度 夕陽会総会 平成25年6月22日(土)



同窓意識を高め 互いに絆を深め合った 大懇親会

四百八十五名の夕陽会員の熱気に包まれた函館国際ホテル天平の間は、今まさに開会の時を迎えようとしていました。開会に先立ち、和高敏明副会長の先導によりご来賓の方々が入場し、会場には大きな拍手が鳴り響きました。今年は、函館市長工藤壽樹様をはじめ、衆議院議員前田一男様、函館消費者協会理事長岩船寛様にもご来賓としての参加をいただきました。

伊藤皓嗣副会長が開会を宣言、いよいよ本年度の大懇親会の宴が始まりました。まずは恒例の「夕陽讃歌」の斉唱です。本年度は函館市立鍛神小学校の青山勝賢先生(昭和六十一年卒)が指揮を担当。参加者全員の母校に対する思いを込めた「夕陽讃歌」が会場いっぱいに声高らかに響きわたりました。

議長挨拶で、橋田恭一会長は、総会に引き続き、「母校は、平成十八年に生まれ変わり、その後も各界で幅広く活躍する人材を多く輩出してきた。今回、新学

方々のご支援を得て、着々と再編が進んでいる。今後も工藤函館市長さんをはじめ、国会議員の先生方、道南の首長さん方や民間の方々の力添えをいただき、良い方向に進展していくことを願っている。今宵は、創造し行動する夕陽会の旗のもと、明るく元気にさわやかに、リラックスして交流を深めよう。」と抱負を語られました。

来賓挨拶では、はじめに工藤壽樹函館市長より「北海道教育大学函館校の学部再編について文部科学省に陳情した。教員養成機能と附属学校の存続について、道南の首長さんとともに、強くお願いすることができた。今回は厳しい状況下で一定の成果をあげることができたこととらえている。市立学校の状況に目を転じると、耐震化、教師用パソコンの設置、体育館暖房などを推進している。小中学校再編についても、今後とも現場や保護者の理解を得ながら進めていきたい。今後夕陽会には道南の教育を支え、有為な人材をたくさん輩出していきたい。」と期待の言葉を述べられました。

次に挨拶に立った成田祥介北海道教育庁渡島教育局長からは、「本道では現在、生きる力の育成、確かな学力の向上が最重要課題になっている。この課題を克服し、北海道教育の進行・発展のため、教育関係者の情熱と使命感が肝要である。この大きな変革の時に、創造し行動する夕陽会として、本道教育に対して、ますますのご尽力を賜りたい。」と期待の言葉がありました。

最後に北海道教育大学副学長(函館校担当)星野立子氏が壇に立たれ、北海道教育大学函館校の「新学部化構想」に対して夕陽会会長をはじめ、たくさんの方々に謝辞を述べられたい。そのあと「来年函館校が百周年を迎える。その歴史と伝統の重さと、夕陽会のバックアップがあつてこそその函館校であることを学生に

も伝えていきたい。教員養成機能と附属学校の存続のためにできる限りのことをしながら、教員を目指す学生、民間企業を目指す学生がともに夢をもち語り合う、共存する大学、学生自身が満足できる大学づくりを目指す。」と述べられ、函館校の新学部化構想への期待と抱負を語られました。

続いて、恒例の新入会員の紹介です。高間猛鍛神小教頭の進行により、今年度参加された三番テーブルの五名の教職員と民間企業会員が紹介され、会場には大きな拍手と声援がわき起こりました。教職員の中には、採用を待っている方もおり、本採用になりたいという強い決意が述べられました。今後ますます各界から多くの新会員が参加してくださることを期待したいものです。

次に、田中健一渡島管内町村教育委員会連絡協議会教育長部会長が「ベネッセの行った調査によれば、保護者の学校教育に対する意識、満足度や信頼度は右肩上がりに推移している。このことは、教員のたゆまぬ努力があつてこそその結果である。この事実を力を得て、私たち夕陽会も、橋田会長のもと、みんなで前進していこう。」と檄を飛ばされ、祝杯のご発声で祝宴が幕を開けました。

今年も会場内は各卒業年次ごとの席で、互いに若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青



エール

春時代に戻ったように、語り合う姿が見られ、夕陽会大懇親会ならではの熱気に満ち溢れる雰囲気になりました。



寮歌の大合唱

境に入り、恒例のエールを打越亮介先生(平成二十二年卒)と須藤健吾先生(平成二十四年卒)が熱演、会場全体が大いに沸きかえりました。いよいよ閉会が近づくと、トリを飾る寮歌の大合唱が始まりました。諸先輩方が背に「夕陽」の揃いの法被姿で登場すると、会場の雰囲気はさらに盛り上がり、小林周次先生(昭和三十三年卒)の音頭で、母校に対する思いを込めた歌声が会場全体を揺らすように響き渡りました。余韻が覚めやらぬ中、乾杯の時間となり、山本真也函館市教育委員会教育長が、「いつも頼りになる、困ったときの夕陽会。今後とも人をつくり、地域をつくる夕陽会であって欲しい。」と乾杯の音頭を取り、宴はお開きとなりました。最後に田邊信之副会長が開会を宣言し、繪面和子副会長の先導でご来賓の方々が退場され、本年度の夕陽会大懇親会も大盛会のうちに終了しました。

平成二十六年度は六月二十一日(土)に、同会場函館国際ホテルにおいて、夕陽会本部総会ならびに大懇親会を開催する予定です。万障お繰り合わせの上多くの会員諸氏がごぞって集い、同窓の輪をひろげようではありませんか。

(昭和60年卒 千代ヶ谷小教頭 樫野人範記)

平成二十五年 夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

1 組織強化と運営の効率化

副会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。

(1) 各界の会員動態の把握と広報活動の継続。

(2) *支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携。(重点事項)

(3) *教職外の会員及び新卒会員の入会促進、会友制度の創設。(重点事項)

(4) 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。

(5) 夕陽会報210、211、212号の発行。

2 人材の育成

人材の発掘と会員の資質・地位の向上を図る。

(1) 会員である道・市町村議会議員、首長部局職員、教育行政・管理職等との連携。

(2) 関係機関・団体に所属する会員との連携。

(3) 指導主事及び教頭等の学校管理職候補者の発掘と育成。(重点事項)

3 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

同窓会活動の最も根幹となる機能である、同窓を「つなぎ」、力を合わせ「集う」という視点から諸事業の見直し・再構築を行い、財政の確立と効率的な運用に努める。

(1) 100周年を見据えた計画的な財政基盤の整備。(重点事項)

(2) *会務・事業検討による、諸業務、諸事業の見直しと再構築。(重点事項)

(3) 各支部と連携した諸会費の納入への取組。

4 研究・研修、文化事業の奨励

会員による個人及び協働の研究等を奨励し、明日の夕陽を担う若手会員等の研究・研修意欲の高揚を図る。

(1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。

(2) 各支部の研修活動等の支援。(重点事項)

(3) 「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成。(重点事項)

(4) 会員による文化事業の奨励。

5 母校への支援と地域への貢献

母校の継続と発展を願い、新学科への対応など当面する課題解決のための支援を行う。

(1) *母校創立100周年記念等への協賛。(重点事項)

(2) 母校及び附属学校園に関する情報の収集と新学科への対応。(重点事項)

(3) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(4) 在学生(会員予定者)に対する同窓意識の啓発と勧誘活動の実施。

(5) 就職対策関係事業、教員採用試験対策関係事業への支援。(重点事項)

(6) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

6 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

改修された夕陽記念館への、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用を図る。

(1) 会員の作品、記念資料等の収集と会報やWebページでの周知。

(2) *夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備、電子的保存・展示の試行。(重点事項)

(3) 夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放などの検討。

(4) 100周年記念事業に向けた諸資料の計画的収集・整理。(重点事項)

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

植山 聡(附属小副校長)

1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録

2 文書の收受、発送及び保管

3 会員の慶弔事務

4 その他、庶務に関する事

財政部

林 敏雄(七飯中長)

1 通常会費の徴収、支出事務

2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務

3 予算書、決算書の作成

4 前納会員に関する事務

5 その他、財政に関する事

組織部

福井 博志(附属幼稚園長)

1 支部組織の編成と組織強化対策

2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)

3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4 その他、組織全般に関する事

情宣部

古川 邦彦(北昭和小長)

1 「夕陽会報」の発行

2 事務局報の発行

3 その他、情宣に関する事

web委員長
鳴海 裕(弥生小長)

文化部

佐藤 洋子(千代田小長)

1 会員の文化活動に対する支援

2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施

3 その他、文化に関する事

研修部

風間 和夫(白尻中長)

1 会員の地位向上対策

2 会員の個人及び共同研究への助成

3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援

4 その他、研修に関する事

厚生部

工藤 勉(潮光中長)

1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施

2 記念資料及び会員の作品収集

3 夕陽記念館の整備、充実

4 その他、厚生に関する事

平成二十五年 夕陽會本部役員名簿

會議議長

副会長

顧問

江別市大森中頭6大森コボ516

函館市日吉町1-22-23
橋田恭一(昭和39年卒)北海道教育大学副学長(函館校担当)
星野立子(昭和13-4)江別市大森中頭6大森コボ516
小頭本頭毅(昭和32年卒)函館市榎本町6-20
繪面和子(昭和39年卒)東京都東久留米市学園1-13-4
三枝三郎(昭和9年卒)函館市日吉町4-21-7
野田孝夫(昭和43年卒)東京都江東区木場2-8-7
杉本征年(昭和40年卒)函館市柏木町福福福
安島福福進(昭和24年卒)函館市青柳町1-20-501
磯部正博(昭和32年卒)函館市結梗4-5-6
絹野重治(昭和40年卒)

函館市島崎孝夫(昭和31年卒)

函館市花岡町5-10
野田義成(昭和32年卒)函館市川原町18-10
天野哲征(昭和41年卒)

函館市島崎孝夫(昭和31年卒)

函館市西旭町2-11-11
小林次(昭和33年卒)札幌市北区太平8-5-7
青柳史匡(昭和42年卒)函館市東山2-17-8
北川省吾(昭和15年卒)函館市厚別区大谷地5-1-15
守山和男(昭和34年卒)函館市八幡町伊伊
伊藤皓嗣(昭和44年卒)札幌市豊平区西岡4-5-5
札根市豊平区西岡4-5-5
上元啓紀(昭和17年卒)函館市赤川町57
中島征士(昭和34年卒)奥州市水沢区真城字垣ノ内20-3
田面木茂樹(昭和48年卒)札幌市南区川沿1-4-9
大場光行(昭和17年卒)函館市湯川町2-43-13
尾島悌一(昭和34年卒)函館市立本通中学校長
田造信之(昭和51年卒)函館市元町4-7
八木幸夫(昭和19年卒)函館市松陰町25-36
中山内洋正(昭和35年卒)北海道七飯高等学校長
佐藤久道(昭和53年卒)東京都杉並区下高井戸5-19-1
木下邦茂(昭和20年卒)函館市富岡町1-10-14
小笠原愈(昭和35年卒)北斗市立上磯小学校長
和高敏明(昭和53年卒)函館市本町20-13
名東陽吉(昭和22年卒)函館市川原町24
金山正智(昭和35年卒)上ノ国町立上ノ国小学校長
森敬(昭和53年卒)函館市川原町13-2
大坂昭雄(昭和22年卒)函館市美原2-26-9
北斗市本町133-34
石岡博心(昭和36年卒)北海道教育大学附属函館中学校副校長
奥崎敏之(昭和60年卒)函館市銭亀町245-39
赤泊昭吉(昭和23年卒)函館市見崎寺寺
小澤寺寺(昭和37年卒)北海道教育大学附属函館幼稚園副園長
福井博志(昭和60年卒)函館市柏木町31-5
三上巖(昭和24年卒)札幌市厚別区厚別東2条4-10-3
青野昌勝(昭和37年卒)北海道教育大学附属特別支援学校副校長
平田新次郎(昭和62年卒)七飯町大中山3-303-21
杉山利夫(昭和27年卒)

函館市山内脩介(昭和36年卒)

函館市柏木町2-17
田中久(昭和33年卒)札幌市中央区北2西21-2-17
福島俊也(昭和28年卒)函館市山内1-11-2
小浅梯司(昭和37年卒)函館市北美原2-13-12
信田利之(昭和33年卒)函館市大川町4-43
山田富雄(昭和28年卒)函館市山内1-11-2
札内征男(昭和37年卒)北斗市久根別2-17-21
西谷文子(昭和44年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
渡利正義(昭和39年卒)函館市美原5-31-18
酒井充(昭和46年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
吉田恵悦(昭和39年卒)函館市結梗5-13-16
森武由美子(昭和46年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
石坂新一(昭和40年卒)函館市山の手3-33-28
長谷川洪恵(昭和47年卒)北斗市押上2-3-10
山本三夫(昭和29年卒)函館市山内1-11-2
古旗英捷(昭和41年卒)函館市石川町325-1
竹内良容(昭和48年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
宮下勤(昭和41年卒)函館市立立神小学校長
三島千春(昭和54年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
齊藤孝(昭和41年卒)函館市立立神小学校長
鈴木牧男(昭和59年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
長谷川任(昭和41年卒)函館市立立神小学校長
高木本牧男(昭和62年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
寺岡治(昭和42年卒)八雲町立雲石小学校長
井上一男(昭和56年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
門脇正(昭和42年卒)函館市立立神小学校長
笹原志郎(昭和38年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
小川武弘(昭和42年卒)七飯町大沼町297-9
森下英治(昭和39年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
石戸大機(昭和42年卒)函館市立立神小学校長
近藤健(昭和41年卒)

函館市山田中則夫(昭和28年卒)

函館市山内1-11-2
中谷匡利(昭和42年卒)

監査

参

大

大

大

平成二十五年 支部役員名簿

[illegible]

就任ご挨拶



就任にあたって

副会長 伊藤 皓嗣
(昭和44年卒)

このたびの総会において、副会長という大役を仰せつかりました。これまで、夕陽会には函館市支部、本部総務の一員としてかかわってきましたので、その職責の重さを実感しております。微力ではあります。橋田会長を始め、役員の皆様や諸先輩のご指導をいただきながら、夕陽会の充実・発展のために努力していきたいと考えております。

昭和四十四年三月、卒業式の日夕陽会から卒業記念品をいただきました。「北海道教育大学函館分校夕陽会」と記されている黒い名刺入れです。学生時代や新卒時代を振り返るものであり、夕陽会とつながるきつかけとなったものです。

母校を卒業後、松前町立大島小学校に新採用となり、当時の国鉄・松前線とバスを乗り継いで赴任しました。心細い気持ちでいっぱいでしたが、同窓の先輩から、さまざまな場でご指導をいただいたことを忘れることができません。現在に至るまで、たくさんの方の皆様に世話話になったことを感謝しております。母校は、来年度、創立百周年を迎えます。しかし、昨今の組織改編を目指す大学の「函館校新学部構想」にかかわっています。夕陽会の強い絆づくりのために少しでもお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしく願います。



就任にあたって

副会長 大堂 譲
(昭和53年卒 函館市立八幡小学校長)

この度、夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。橋田会長はじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の充実・発展のために、精一杯職責を果たす所存ですので、どうぞよろしく願っています。

私と夕陽会との出会いは、昭和五十三年三月、卒業の手続きの折、夕陽会（ゆうひかいと読んだ）を初めて知り、以来、福島町、函館市で教員を十六年間経験させていただきました。夕陽の先輩に大変お世話になりました。この教員時代には、夕陽会以外の教員が異質（失礼）に思われ、右も左も夕陽の教員ばかりで、ありがたさなど、感じることはありませんでした。

その後、平成六年四月から、室蘭市教委を皮切りに、教育行政に身を置くこととなりました。行政に出て、一番不安に思ったのが知っている方がほとんどいないこと。そんな中、夕陽の先輩や同期、後輩がいてくれたことは、どんなにか心強く、ありがたさを痛感したものです。まったく知らない先輩にいろいろな面で助けられました。ただ、同窓というだけでです。本当にありがたかったです。この度の就任を機に、少しでも恩返しのできればと思うとともに、本会のためにお役に立てるよう頑張りますので、よろしく願っています。



就任にあたって

副会長 田邊 信之
(昭和51年卒 函館市立本通中学校長)

この度、函館市中学校長会会長就任に伴い、夕陽会副会長という大任を仰せつかりました。微力ではございますが、橋田会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の一層の発展のために精一杯努力をしたいと考えています。

母校卒業以来、その時々夕陽会の方々に力強く励まされ、温かい手をさしのべていただきました。私は、昭和五十一年に長万部町立双葉小中学校に採用されましたが、出身が小樽で、函館や渡島の地に身寄りも無い自分にとっては、不安と心細い気持ちでいっぱいでした。それを払拭してくれたのは同窓の先輩方でした。勤務校は勿論のこと、近隣校の夕陽会の方々と、多くの支援・ご協力をいただいています。

この度の就任を機に、少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思います。一年間どうぞよろしく願います。



深翠の丘陵に帰る

副会長 佐藤 久道
(昭和53年卒 北海道七飯高等学校長)

この度、夕陽会高校支部長、黒田先生のご勇退に伴い、夕陽会副会長という大役を仰せつかり、その職責の重さを痛感しております。

私は母校を卒業後、富良野市立西達布中学校に採用になりました。その年は六十数名が上川管内に新卒として採用になりましたが、函館校出身者は私一人でした。初任者研でも殆どが旭川校出身者で、初めはとても寂しい思いをしました。それから三十五年が経ち、中学校から高校に移り、道内八支庁で勤務しました。とりわけ渡島は四度目で、今春以前勤務していた七飯高校に十二年ぶりに戻ってまいりました。

深翠の丘陵（ミドリノオカ）とは七飯

高校の校歌二番にあり、「我らは愛す深翠の丘陵を 遙かに仰ぐ 横津の雄姿」の一節であります。その丘陵に建つ本校から、上磯から大野まで力いっぱい伸びる新幹線の高架が一望できます。二年後には東京まで約四時間で結ばれ、我々の学生時代、連絡船と特急はつかりで十二時間はかかっていましたから三分の一に短縮されます。まさに隔世の感があります。

我が母校は来年、百周年を迎えます。その同窓会である歴史と伝統の夕陽会のも更なる発展のために、大任を引き受けたからにはベストを尽くしたいと思っています。皆様の指導、ご支援を宜しく願っています。

全国支部長会議

今後の各支部の活性化と本部の支援について議論

平成二十五年度の全国支部長会議は函館国際ホテルで六月二十二日（土）午後一時三十分より開催された。

司会進行は榎山庶務部長、議長は網野・田面木両副会長が務め議事が進められた。会議では、議事の冒頭で、橋田会長が母校が国際地域学科に再編され教員養成機能も存続される見通しとなったことを報告し、これまで一年間の経緯と支援いただいた各種団体、関係機関への謝辞を述べた。

後半の各支部からの報告・交流では奥崎幹事長が進行を努め、①各支部の研修事業への取組と本部の支援②新会員を取り込むにはどうあればよいか。③各地の臨採教員の情報共有とその活用についての三点に絞って意見交換が行われた。

上川支部からは「若手の教員採用が少ないが懇親会に併せて研修会も実施している。また同窓の教育行政勤務者を講師として研修の充実に努めているが管内の民間の会員も増えており、それらの会員のニーズにどう応えていくかが課題である」という意見が出された。

また帯広十勝支部からは「新卒会員が非常に少ない状況が続いており、参加者の高齢化が課題であるが、若手会員に声掛けをして、町村交流会、七方面に分かれたブロック交流会、全体交流会に若手が参加するようになってきた。今後も若手の部会等に積極的に参画をしていきたい」という意見が寄せられた。

また胆振支部からは「各地に散らばった臨採教員の登録システムを作って、出

身地へ戻っている同窓の臨採教員の活用を図るよう本部も努力してほしい。」という要望があった。

これに対し奥崎幹事長は「本部としても全道的に臨採教員を登録し活用できる何らかのシステムを考えたい」と回答した。

札幌支部からは、転出入により支部を変更したり地方で定年退職し札幌市へ来た場合等は、互いに異動情報を共有することで「つながる同窓」を大切にしたいという声があった。また教員養成が存続されることになった函館校の新学部について、大学が積極的に全道の高등학교へむけて情報発信するよう努力すべきではないかという意見が出された。

終わりに奥崎幹事長は「若手卒の補助事業」をさらに活用されやすいように見直すとともに、本部とタイアップして支部の活性化を図るモデル支部として帯広十勝支部と協力して取組みたい旨の提案を了承された。



発言する帯広十勝支部長

平成26年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会・全国支部長会議 のお知らせ

○ 日 時 平成26年 6 月21日（土）

○ 会 場 函館国際ホテル

函館市大手町 5 番10号 TEL 0138-23-5151

- | | |
|-----------|---------------|
| ● 全国支部長会議 | 13時30分～15時30分 |
| ● 総 会 | 16時～17時 |
| ● 大 懇 親 会 | 17時30分～20時 |

会務報告



幹事長

奥崎 敏之
(昭和60年卒)

《一般会務・函館校関連の動き》

- 3/15 卒業生の15専攻代表者会議が開かれる。(函館)
- 3/16 函館校卒業式に橋田会長が出席する。(函館)
- 3/22 函館市PTA連合会が函館校の教員養成機能存続要請の署名を文部科学省に届ける。(東京)
- 3/26 函館市議会が函館校の教員養成機能維持を求める意見書を採択。(函館)
- 3/27 函館校に教育学部存続の報道がなされる。(函館)
- 4/2 北海道教育大学合同入学式に橋田会長が出席する。(札幌)
- 4/16 第4回役員会が開催される。(函館)
- 5/24 平成24年度会計監査を行う。(函館)
- 5/31 夕陽教育フォーラムが開催される。(函館)
- 6/7 第5回役員会が開催される。(函館)
- 6/14 第6回本部役員会、顧問・参与会議が開催される。(函館)
- 6/22 平成25年度全国支部長会議・本部総会・懇親会を開催する。(函館)

《支部総会・懇親会・同期会・個展等》

- 4/13 函館市支部総会が開催され、橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(函館)
- 4/20 空知支部総会が開催され、橋田会長が出席する。(岩見沢)
- 4/26 札幌市支部総会が開催され、橋田会長が出席する。(札幌)
- 4/26 八雲支会総会が開催され、奥崎幹事長が出席する。(八雲)
- 4/27 釧路支部総会が開催され、橋田副幹事長が出席する。(釧路)
- 5/10 室蘭市支部総会が開催され、奥崎幹事長が出席する。(室蘭)
- 5/11 帯広十勝支部総会が開催され、橋田副幹事長が出席する。(帯広)
- 5/11 渡島支部総会が開催され、橋田会長が出席する。(函館)
- 5/11 上川支部総会が開催され、奥崎幹事長が出席する。(旭川)
- 5/11 石狩支部総会が開催され、平田副幹事長が出席する。(札幌)
- 5/11 檜山支部総会が開催され、天野副会長が出席する。(江差)
- 5/11 小樽市支部総会が開催され、福井副幹事長が出席する。(小樽)
- 5/16 函館市支部幹事会・新会員歓迎会に橋田会長が出席する。(函館)



- 5/18 後志支部総会が開催され、橋田会長が出席する。(倶知安)
- 5/24 苫小牧市支部総会が開催され、平田副幹事長が出席する。(苫小牧)
- 5/29 指導主事等会総会が開催され、橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(札幌)
- 6/1 33年同期会が開かれ、繪面副会長が出席する。(函館)
- 6/6 北斗支会総会に橋田会長が出席する。(北斗)
- 6/6 長万部支会総会に奥崎幹事長が出席する。(長万部)
- 6/7 鹿部支会総会に奥崎幹事長が出席する。(鹿部)

ご就任おめでとう
ごさいます

*黒松内町教育委員会教育長選任

(H25・4・2)

内山 哲 男氏

(昭和51年卒)

*北見市教育委員会教育委員長就任

(H25・4・26)

浪岡 康 二男氏

(昭和48年卒)

受章おめでとう
ごさいます

*瑞宝双光章

能代 久 司男氏

(昭和19年卒)

知内町元町三三五の五

桑 名 巖男氏

(昭和20年卒)

函館市東川町五の八

古 閑 隆男氏

(昭和27年卒)

七飯町大川三の一〇の一〇

ご案内 ＊ INFORMATION

夕陽「明日の教師養成塾」

平成25年 7 月27日(土), 28日(日)

会場 附属函館中学校

対象 過年度卒業生等

申し込み 組織部 福井 博志 (Tel) 0138-46-2237 (Fax) 0138-47-8731

(7月25日締切)

各種研修会等を助成しています

・研究会・研修会助成 ・個人研究助成 ・若手枠研究助成

－お気軽にご相談ください。－

研修部長 臼尻中学校 風間 和夫 (Tel) 0138-25-3281

夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから8年が経過しました。現在まで、数万人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み
会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過
母校90周年記念式典、支部・本部掲示板
本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報
渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」
母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 鳴 海 裕 (昭和54年卒)

地域貢献を続ける夕陽会



箱館奉行所へタブレットを寄贈

夕陽会函館市支部長 三島 千春
(昭和54年卒)

函館市支部では、碓幸信元支部長の時代より『地域貢献』と『民間同窓生への組織拡大』の二つを大きな目標に活動してきている。観光都市函館にある公共施設のサービス向上に貢献することを目的とし、平成二十二年には箱館奉行所の開設にあたり、二台の車椅子の寄贈が行われた。

その後、青木昌史前支部長が意志をしっかりと受け継ぎ、二十三年度に箱館奉行所へフロアライト五台を、そして、二十四年度には同じく箱館奉行所にタブレット型端末「iPad（アイパッド）」一台を寄贈した。奉行所では、iPadに約百枚の写真データを取り込んで同館を訪れる観光客の説明時に使用してもらっている。小中高生も多く訪れるこの奉行所で映像を見ながらより知識を深めてもらい、歴史学習の一助となることを願っている。

贈呈式は、平成二十五年二月二十五日に奉行所内で行われた。

青木前支部長から山本真也教育長に目録が手渡された。教育長からは「有効に、そして、大切に使用していただきます。」と、いうお礼の言葉をいただいた。その折りの感謝状は、これまで同様、夕陽記念館に置かせていただいている。



これで函館奉行所には三年連続の寄贈となった。今回も同館の沼崎孝男館長には寄贈品の相談にのっていただくなど大変お世話になった。館長からは『これまで奉行所では、子どもたちへの説明の時に写真パネルを用意し説明する職員が紙芝居のようにめくりながら解説を加えていたが、このタブレットのお陰でスムーズに説明することができるようになった。子どもたちにもわかりやすいと好評です。』と、感謝された。

今年度は、縄文の里、南茅部地区にある縄文文化交流センターに何か寄贈できないか検討を行っているところである。このような継続した地域貢献の取組は、新聞にも紹介されるなど市民にも広く知られるようになり、本学の教員養成課程廃止を食い止めた大きな市民運動とのつながりを感じずにはいられない。認知度の上がつた今、社会的責任の重さに背筋の伸びる思いである。

さて、『民間同窓生への組織拡大』については、二年前より卒業年の代表幹事を選び、同期への声かけをお願いすることで少しずつ懇親会参加も増えている。これも前支部長の尽力や本部からの支援、母校キャリアセンターのご協力の賜と感謝するとともに、今後各職場を訪問し地元企業の後輩達の輪をさらに広げていく決意である。

夕陽「未来の教師フォーラム」

―後輩への熱いアドバイス―



組織部長（副幹事長） 福井 博志
(昭和60年卒)

去る五月三十一日、函館校四号館特別教室において、夕陽「未来の教師フォーラム」を開催しました。

これは組織部が企画・運営を行います。函館校キャリアセンター竹鼻洋文氏（昭四十九年卒）の全面的な御協力をいただき、今年で八年目となるものです。

今年も夕陽の先輩や附属学校の教員が教員採用試験を控えた現役学生に直接アドバイスを行いました。

全体進行は、附属中学校の阿部智子氏（平四年卒）と宮野健氏（平六年卒）が担当。最初のコマは教育大学函館校の松田賢治氏（昭六十年卒）が、「今日的な教育課題」と題して講演を行い、その後、各学校種別に分かれて研修を積みました。小学校部会は、附属小学校の冬野恒史氏（平十三年卒）と森紗織氏（平十六年卒）が担当。

中学校部会は附属中学校の松下賢氏（平五年卒）と森茂之氏（平成十三年卒）が担当。特別支援学校部会は、和倉歩氏（昭六十二年卒）が担当し、平田新次郎副幹事長（昭六十二年卒）も指導に加わりました。特別別科部会は附属小学校の中野有美子養護教諭にもご協力をいただきました。

各グループ毎に模擬授業をはじめ場面指導など、現場教員のノウハウが懇切丁寧に教授されました。学生の真剣な眼差しに予定していた時間は、あつという間



教師フォーラム受講風景

に過ぎてしまいました。伊勢勢五十名を超える参加者でしたが、学生からは「やはり現場の先生方の授業はすごい！」「受験対策書に載っていない事を学ぶことができた。」「すぐに使えるスキルを教えていただいた。」「などと、御礼の声が多数聞かれました。

組織部では、来年度以降もこの取り組みを継続し、現役学生への支援を考えています。

なお、既卒者への支援については、今年も「明日の教師養成塾」と題して、教採二次試験対策講座を設定しています。今年は七月二十七・二十八日と附属中学校を会場として開催いたします。各支部を通じて案内をしています。組織部長（附属幼稚園 福井）へ直接お問い合わせいただいても結構です。

一人でも多くの学生が教職の道を歩んで欲しいと願っています。

前納会費納入会員名簿追加分

府金重一 横浜 昭37

(平成二十五年六月二十五日現在)

夕陽会員名簿

武田(柴田)豊作氏 昭2
札幌市西区八軒5西2の3の30
静枝氏利田 守久氏 昭13
函館市滝沢町10の17
由里子氏松川 岩夫氏 昭9
白老町虎杖浜45の34
祐子氏工藤 福弥氏 昭19
三戸町大字川守田字橋の下34の3
浪子氏石田 武彦氏 昭33
上ノ国町上ノ国177中
恵子氏近風 藤作三氏 藤昭3
函館市栄町5の5
享子氏藤原 幸子氏 昭30
函館市千代台町20の13
孝一氏横村 三郎氏 大15
札幌市南区澄川4の4の9の10
憲氏小寺 憲雄氏 澤昭4
喜茂別町字喜茂別16の40
とみ子氏松山 忠康氏 昭19
札幌市中央区南16西18の3の30の105
覚氏太田 達雄氏 昭11
札幌市中央区宮の森3の13の4の56
かず氏目谷 正次氏 昭33
八雲町熊石平町324の228
興子氏鈴木 耕一氏 昭24
函館市鍛冶2の12の11
一朗氏佐賀 佳一氏 昭18
函館市上湯川町18の8
順子氏石井 久氏 昭23
恵庭市中島町6の15の12
佳子氏富田 尾正義氏 尾昭2
函館市柏木町28の13
不死子氏朝井 薄氏 昭22
帯広市東1南16の12の2
美代氏長尾 之児氏 昭9
札幌市南区北ノ沢6の13の3
綿屋圭子氏澤口(伊林)緑氏 昭30
函館市神山3の57の23
梅藏氏森野 修氏 昭24
函館市美原2の33の5
静枝氏北村 正男氏 昭20
函館市松陰町4の7
ヒサ子氏森野 修氏 昭24
函館市美原2の33の5
静枝氏

(平成二十五年六月二十五日現在)

前納会費制度
ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(三年に一度の発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- | | |
|-------------------------|-----|
| ①大正年代の卒業生 | 五千元 |
| ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 | 一万元 |
| ③同じく昭和五十一年以降の退職者 | 二万元 |
| ④平成元年以降の退職者 | 三万元 |

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円で、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二一〇号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、初夏の夕陽、緑の島の夕景です。今夏GLAYの野外コンサートが開催されることで話題になっている場所です。ヨットハーバーの夕暮れ時はなかなかの絶景でした。

◆母校の新学部構想を巡っては、昨年来様々な動きがありました。各方面の絶大なご支援のおかげで、ひとまず新学科の設置と教員養成機能の存続という形で決着しそうです。今後の動向を注視したいと思います。

◆掲載してほしい情報・取材してほしい題材等、どしどし本部事務局や情宣部にお知らせください。お待ちしております。



(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138) 46-2235

夕陽会専用(0138) 34-5520

FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭氏 昭4卒)